洋上アルプス No.358 令和７年度 ７月

2025年07月31日（木曜日）令和７年度 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会総会の開催について

7 月 31 日(木曜日)に屋久島レクリエーションの森保護管理協議会総会が屋久島町役場で開催されました。

本協議会は、屋久島の「レクリエーションの森」（ヤクスギランド、白谷雲水峡）の保護・管理及び活用を円滑に推進することを目的に、平成 19 年度に設立されたものです。

事務局から、令和６年度の活動実績及び決算報告、令和７年度の活動計画及び予算案が提案され承認されました。この中で、昨年８月の台風 10 号により倒木被害等があったものの、入林者はほぼ一昨年並みだったことや、無線施設や防犯カメラ等の施設が被害を受けたこと、国立公園基金助成金の活用により、携帯用トイレブースを２箇所追加で設置できたこと等について報告がありました。

喫緊の課題として、入林者がコロナ禍から回復傾向にあるものの、ピーク時には及ばず依然として運営が厳しい状態であることから、協力金の値上げについて検討したいとの提案がなされました。

委員からは、関連した意見として、海外からのインバウンド客が増加しており、「サービス提供に費用がかかる」、「サポーター収入を増やせないか」などの意見が出されました。

最後に、協議会として、これらの課題に対して早急に検討を進めていくことで意見がまとまり、総会を終了しました。

ヤクスギランド（荒川橋）（左）、白谷雲水峡（さつき吊橋より）（右）

2025年07月29日（火曜日）屋久島の森林・林業木材産業を知る～令和７年度「屋久島森の塾」開催～

当保全センターと屋久島森林管理署では、平成 30 年度から続いている町内小中学校教職員を対象

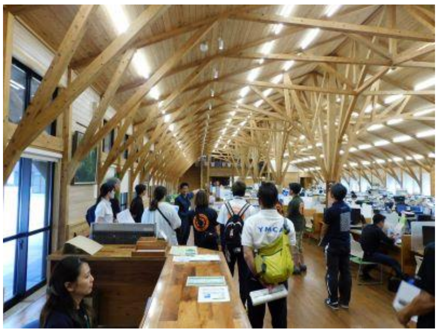
とした「屋久島森の塾」に取り組んでいます。今年度は小・中学校等から 11 名の教職員等参加のもと、屋久島における森林・林業の現況や循環する屋久島の林業、川上から川下までをテーマとして実施しました（屋久島町教育委員会共催）。

具体的な講座として、現在屋久島で行われている林業・ 木材産業を主体に、(ア)ヤクスギ土埋木と地杉島外出荷の現状、(イ)森林施業地見学（森林整備箇所）、(ウ)屋久島の林業再生（苗木の育苗）(エ)地杉の加工・ 販売（屋久島地杉加工センター視察）(オ)地杉を使った役場庁舎見学のカリキュラムを立て実施しました。

参加者は、聞き慣れない言葉にも熱心に耳を傾けられ、スギ人工林の伐採と自然遺産地域との関係について質問されるなど、大変興味深く、そして有意義な時間となっていました。更に、アンケートでは、「屋久島の森林・林業に関する知識が増えた」「土埋木の保管や時代変遷」「次の世代へ、将来を見据えた考えなど良かった」「関係する皆様が連携されている」など多くの感想をいただきました。また、林野行政に対しても沢山の有難いご意見等をいただきました。

今後もアンケートに記載されたことを基に、充実した内容で屋久島の将来の為に、人材育成の観点からも「屋久島森の塾」を継続して開催したいと考えています。

ヤクスギ土埋木について説明（左）、ヤクスギの人気度は高い（中）、ヤクスギ円板の説明（右）



加工技術説明に聞き入る（加工センター）（左）、木造庁舎の説明（役場庁舎）（中）、閉会の挨拶（下村所長）（右）

2025 年 07 月 23 日（水曜日）令和 7 年度 屋久杉自然館特別展の開催

屋久杉自然館において、令和 7 年度屋久杉自然館特別展「いのちをつなぐ―屋久杉巨樹・著名木展―」が 7 月 23 日から開催されています。

この特別展は、平成 4 年に実施した「屋久杉巨樹・著名木」調査と世界遺産登録 30 周年事業の一環として令和 4 年度から 5 年度にかけて再調査した結果の報告展として開催されています。

7 月 23 日のオープニングセレモニーでは、屋久島森林管理署の野邊署長より調査に参加された関係機関・団体へのお礼の挨拶の後に、屋久杉巨樹・著名木の調査担当者の当保全センター古市行政専門員から、調査の概要について報告があり、続いての除幕式では昨年倒伏した弥生杉の生前の巨大パネルがお披露目されました。その後、屋久杉自然館職員より今回調査した 47 本の巨樹・著名木について、展示内容の説明等が行われました。

この特別展は、令和 8 年 7 月 20 日（月曜日）まで開催されていますので、是非お立ち寄りください。

なお、今回の調査結果を踏まえ、屋久杉自然館より「屋久杉巨樹・著名木」の改訂増補版が発行され、47 本の巨樹・著名木が紹介されています。

挨拶する野邊署長（左）、調査概要を説明する古市行政専門員（中）、展示コーナー説明（右）

2025 年 07 月 07 日（月曜日）～07 月 08 日（火曜日）
屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカ WG を開催

令和 7 年度第 1 回屋久島世界遺産地域科学委員会が屋久島環境文化村センターにおいて、ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議（以下ヤクシカ WG）が屋久島町役場において開催されました。

7 月 8 日の科学委員会では、（ア）前回会議の議論整理、（イ）屋久島世界遺産地域管理計画に基づく事業の実績及び予定、（ウ）令和 6 年度世界遺産地域モニタリング調査等結果の概要及び 7 年

度の計画、（エ）令和７年度第１回ヤクシカ WG 及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議の報告、（オ）屋久島世界遺産地域モニタリング計画、（カ）屋久島世界遺産地域における湿原対策等について関係機関より報告され、項目ごとに議論されました。

国立公園については、約 20 年間見直しがされていなかったことから、大規模な見直し作業を行うとの説明があり、これについて、世界遺産地域も同じ拡張の準備をしてもらいたいとの意見がでました。

し尿処理検討専門部会で策定している「し尿処理適正化に向けた方向性について」について、取り組み項目ごとに年次計画を立てて進めた方が良いとの意見や、協議されている内容は、利用者の視点で作成されているように見え、山岳ビジョンとの整合性が取れていないのではとの意見があり、活発な議論がされました。

７月７日のヤクシカ WG では、(ア)ヤクシカの生息状況等について、（イ）捕獲等の被害防止対策について、(ウ)森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング等について、(エ)特定エリアの対策（西部地域）について、(オ)モニタリング調査項目（侵略的外来生物等の増減や分布変化による生態系への影響）について、議論が行われました。

ヤクシカの推定生息頭数は令和５年度と比較して減少している。しかし、ヒヨドリ、サル、ヤクシカによる農作物被害は前年度より増加している。加えてタヌキによる被害も増加しており、国内外来種でもあるタヌキの分布状況の把握が必要ではないかなどの意見が出されました。

また、ヤクシカなどに付着するマダニが媒介して発症する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について報告があり、特に、タヌキに付着するマダニは SFTS ウイルスを保有しているリスクが高いので注意が必要とのことでした。

科学委員会（左）、挨拶する池田計画保全部長（中）、ヤクシカ WG（右）